

大津市立仰木の里小学校

活動テーマ

平成29年度
エコ・スクール活動報告書

自然環境を守るため、

私たちにできることは

実践事例について

本校では、毎年2年生で実施する琵琶湖畔への校外学習で、湖岸や川辺に生息する生き物の観察を行っている。そこで見つけた特定外来生物「アカミミガメ」を学習のため各班で1匹ずつ飼育することになり、外来生物についての学習がスタート。「なぜ、アカミミガメがたくさん川辺にいたのか？」という疑問から始まり、外来生物がもたらす問題について知り、自然環境を守るために、私たちができることを考えた。

1 学校紹介

本校は、豊かな自然と歴史に恵まれた琵琶湖西岸に広がるレークピア大津「仰木の里」にある小学校である。新興住宅地として開発プロジェクトが始まったのは1980年。今から28年前に仰木小学校から分離し、その後、800名近く児童数が膨れ上がり東小と分離。現在は全校児童209名、クラス数11の小規模校である。自然を取り入れた公園緑地エリアと周囲の環境と調和した居住エリアに日々の生活に必要な施設がバランス良く配置されている街である。子ども達は、自然豊かな環境であるにもかかわらず、直接自然と触れ合う機会は少なく、生活科や総合的な学習の時間に、さまざまな取り組みを行うことで、環境学習を進めている。

2 児童集会（キックオフ宣言）

本校では、毎月1日に運営委員会が自ら企画する「児童集会」を開催している。この児童集会で



は、今私たちの小学校で取り組んでいる内容について全校に紹介したり、働きかけや協力を求めたり、テ

マをもとに学級で話し合ったことを発表したりしている。

7月の児童集会では、主に4年生で活動する「里小カメキッズ」と5年生で活動する「里小メダカキッズ」の取り組みについて全校で共有した。

3 「里小カメキッズ」の取り組み

4年生では、2年生から飼育を始めた「アカミミガメ6匹」について、「今後、このカメの飼育をどうするか」について話し合い活動を進めてきた。飼育当初の2年前は、全長5cm以下のかわいい

カメであったが、今では10cmを超え、飼育スペースや掃除、エサやり、夏休みの世話について何度も討論を重ねてきた。最大の問題は「いつまで飼いつづけるのか」ということである。「もし、飼育をやめるのであれば、このカメはどうしたらいいのか」という疑問である。特定外来生物に指定されていて、川に放すことができない以上、「カメの命」と向き合うことになった。あらゆる機会でも調べ学習を進めてきたが、未だに結論は出ていない。そこで、琵琶湖



飼育当初の2年前は、全長5cm以下のかわいいカメであったが、今では10cmを超え、飼育スペースや掃除、エサやり、夏休みの世話について何度も討論を重ねてきた。最大の問題は「いつまで飼いつづけるのか」ということである。「もし、飼育をやめるのであれば、このカメはどうしたらいいのか」という疑問である。特定外来生物に指定されていて、川に放すことができない以上、「カメの命」と向き合うことになった。あらゆる機会でも調べ学習を進めてきたが、未だに結論は出ていない。そこで、琵琶湖

博物館の学芸員である中井克樹さんに来校いただき、話を聞くことにした。



まず、琵琶湖の環境について、琵琶湖固有種と外来生物について、写真をもとに学習した。ブラ

ックバスやブルーギルの話は、釣りが好きな子どもにとって日常であるが、学芸員から聞く話はたいへん参考になった。魚以外にも、私たちの周りには、固有種以外に、多くの外来生物がいることを教えてもらった。次に「なぜ、外来生物が自然繁殖を繰り返しているか」について、「ペットとして飼われていたものが、飼えなくなり放されたから」という理由を

聞いて、「人間の都合で、自然環境が破壊されている」ことに気づいた。4年生では、中井学芸員さんからいただいた助言をも



とに、引き続きカメ6匹を学級全員で分担しながら飼育を続け、卒業を迎える2年後に結論を出すことにした。身近な問題であるだけに、私たちができることについて深く考える機会をもらった。

4 「里小メダカキッズ」の取り組み

5年生では、理科の学習で「メダカ」を利用して「卵」や「繁殖」のしくみを学習する。そこで実際にメダカを飼育し、学級で繁殖を試みた。現在世間で「観賞魚」として飼育されているメダカは100種類を超え、人気を誇っているが、川にはメダカがいなくなっている。地元にいる固有種がいろいろな理由で絶滅しかかっているからである。



メダカが自然繁殖するための環境が整っていないのが大きな理由である。

春には、琵琶湖でのカヌー体験や

外来魚釣り、プランクトン観察など、実際に琵琶湖に触れる活動を行った。そして、活動を通じて



分かったことや、課題をまとめた。その後、フローティングスクールで学んだことや感じたことを取り入れて、身近な環境を守るため

に私たちができることについて考え発信した。

5 他学年の取り組み

1年生では、生活科で学校敷地内にある「みのりの森」へ「秋探し」にでかけ自然の良さを感じることができた。そして、集めた木の実や落ち葉を利用してクリスマスリースを作ったり、お店を開いて幼稚園児を招待する活動を行った。

2年生では、生活科で学区内の公園を探検し、生き物と触れ合う活動を行った。見つけた生き物について、すみかやエサなどを調べ、実際に飼育することで生き物がくらす身近な環境を大切にしようとする気持ちが育った。

3年生では、琵琶湖博物館を見学し、「昔の暮らし」について調べ学習を行い、昔の生活にはエコな工夫がたくさんされていることに気づき、日常生活に生かそうとした。

6年生では、修学旅行で広島を訪れ、平和学習を積み上げる中で、地球環境の保全と、各自が興味を持ったテーマについて、さまざまな方法で調べたり、実験を行ったりした。

6 エコスクールを振り返って

子どもたちは、身近な暮らしや自然環境をテーマに体験することを通じて、身近な環境について考え、仰木の里のすばらしさに気づき、地域への愛着や誇りを感じることができた。また、そこから視野を広げ、日本や地球規模での環境問題について興味を持ち、課題解決に向けての取り組みに積極的に関わろうとする気持ちを育てることができた。今後も各学年の計画に基づいた実践を続けたい。

学校名	大津市立仰木の里小学校
住所	大津市仰木の里4丁目4-1
電話番号	077-572-1910
E-mail	ogis@otsu.ed.jp